

あごら

MINI

〈25号〉

1979年2月10日発行 ¥100 円50

〈女と男〉のミニ雑誌〈あごらミニ〉 ●何でも言える

●何でも書ける ●小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉

●あなたの声を待ってます。みんなでつくる〈あごら〉

わたしは女に生まれた

わたしは女に生まれた
子どもの頃 自分の名前で呼ばれた
駆けまわった けんかもした 木登りだってした
わたしは 歌った
何でもできる
何にでもなれる
のびのびしていた

わたしは 高橋生になった

クラスの委員長も 生徒会長も クラブの部長も男だった
家庭科で料理をしている時

わたしは 歌った
かわいらしくなるう
女らしくなるう

わたしは 窮屈だった

わたしは 学校を卒業した

わたしには 職業を選ぶ自由がなかった
ひどく困惑しながらも 小さな会社にはいった

男の仕事と 女の仕事と が分かれていた
給料も安く 何年たっても同じ仕事だった

わたしは 歌った

結婚しなくっちゃ
結婚しなくっちゃ

わたしは 悲しかった

わたしは 結婚した

苗字が変わった
おあさんと呼ばれた
こどもが生まれ

三井まり子

保育所がなく 仕事はあきらめた
年ごとに夫の帰りが遅くなった

学生時代の友人は少なくなりました
わたしは 黙って坐っていた
もう歌など うたえない

わたしは 孤独だった
もう歌など うたえない

わたしは デパートへ行った

そこは女の息抜き場所

女は消費の女王だ いつでも翔んでる女になれる
お金さえあれば 売っているのは男たちだ

デパートは さそいける
女たちよ翔べ

わたしは 空しかった

わたしは 女に生まれた

今 わたしには見えてきた

男に合わせなければ「やっぱ女は」と言われ
「女らしいね」とお茶汲みをさせられ

「結婚こそ女の幸せ」と追いつてられ
子どもの頃の羽根をもぎとられてしまった女たち

わたしには見えてきた
とんでいる女がどこにいる？

女のとぶ空がどこにある？

わたしは 女に生まれた

今月のなかみ

〈東京事務局編集〉

報 詩

告

アピール

掲 示 板

お 知 らせ

わたしは女に生まれた……………三井まり子…1

私たちの男女雇用平等法を作る大集会

八百人の熱気……………2

参加者の声から……………4

宣言……………5

労基法改悪提言に……………6

労働省へハガキで抗議しよう……………6

大学解研の方々情報をください！……………6

あごら全国大会のおしらせなど……………7

各地のもよおし 女の講座・女のついで……………8

へあごらへ

カウンセリング

ルーム

開設について

自分のかかえている問題（長期的にしろ短期的にしろ）をなんとか解決できないか、と悩んでいる方は、多いのではないのでしょうか。しかし、精神病院に行くほどでもない、友人に相談しても、甘えてい、とか、がんばりなさい、という言葉しか返ってこなくて、途方にくれる、ということがある、自分はどういう人間なのか、少なくとも、人にはどう映っているのかを理解したい、ということもあるでしょう。

へあごらでは、女性の持つ多様な問題の相談に応じ、自分に納得のいく生き方を模索する手助けのため、専門家によるカウンセリングルームを近く開所することになりました。具体的なことは決まりしだいお知らせいたしますが、どうぞドシドシご利用下さい。

●問い合わせ先 あごら

03・354・3941

800人の熱気——わたしたちの

男女雇用平等法をつくる会

お茶くみを拒否する と採用されない

会場となった東京・渋谷の山手教会は昨年の1・28集会のとき同様底冷えしていたが、次第にムンムンした熱気に包まれてきた。場内を見回すと、一階は満員、二階もほぼ一杯。男女の外人が多いのも目立つ。八百人、よく集ったなあ、と、ジーンと熱いものがこみあげてくる。労基法研究会の報告が出されてから二か月、この短い期間に、よくもここまで盛り上がった！

壇上には「私たちの雇用平等法をつくる会」の若い司会者たち。経過報告に続いて、さつそく「現場からのアピール」が始まる。トップは「鉄連の七人の女たち」で裁判闘争している佐々木元子さん。「女性の仕事の内容で差別されている。何年たってもお茶くみ、コピーとり。これに抗議した私は、専門的な司書の仕事から一般事務に回された。労基法四条で性による差別をしてはならないことになっているが、これは賃金差別しか規制できない。労働省も、「どんな仕事をさせるかは企業の自由」と冷たかった。そこで昨年、職場の仲間たちと「男女差別

撤廃」の訴訟を起こした。使用者を訴えたのだから大変だが、私たちが勝つことは私たちと同じような苦しみに耐えている人々に大きな影響を与えるので負けない」

続いて女子大生の立場から上智大の大塚夏子さん。

「上智は女子学生の就職率が高いことで知られているが、学校に来る求人ほとんど男子ばかり。女子も採用するものには赤マルがついているが、ものすごく少ない。赤マルのほとんどはスチュワデスのような職種。先日の「サンデー毎日」でも、「美人でなければ入れない」と冷やかしていた。差別がない建前の公務員試験でも「コピーやお茶くみをやりませんか、生理休暇はいりますか」と聞かれ、否定的な答をする採用されない。雇用平等法がどうしても必要」

次は、団地の主婦、高橋裕見子さん。「再就職したい主婦は自分のまわりにもたくさんいるが、再就職は実にむずかしい。第一に子どもの預け先がない。また預け先があつたとしても一旦仕事を中断すると就職はほとんどできない。きちんと働きたいので一昨年保母の資格をとったが、市の保母は二十二歳までという年齢制限があり、やむなく一日三時間、時

間外保育の保母として働いている。子どもを生んだ経験のない若い保母と共に、子育ての経験のある年配の保母も働くことが、子どもにとっても望ましいと思うのだが残念だ。就職の年齢制限をとり払ってもらいたい」

システムエンジニアとして優秀な技術をもつ山田郁子さんが、離職後、専門職の道をとざされ、経理の勉強をしてやつと再就職した先で、育児のための遅刻・早退が多いと解雇された経過が代読されたのに続き、キャリアアウーマン十五年の舟本恵美さんが登場。

「キャリアアウーマンと紹介されたが、キャリアアウーマンではない。私企業に入って十五年、五歳年下の男が二階級上で、年収で百五十万から二百万もひらきがある。私はいつまでたつてもただの女。私企業に入ったのは、差別があることを知っており、それを取り払うためには中に入ってたかうほかないと思つたからだ。内部でたたかうのも、現実にはなかなかむずかしい。しかし、男みたいに仕事をするのがいいか、疑問がある。企業に貢献することが女の人間解放につながると思えない」

代わつて白髪の中本ミヨさん。日産自動車の定年差別でたたかい始めた頃は、

まだ髪黒々とした人であつたのにと見上げるうち、力強い声で朗々と話し始める。「たたかい始めたころは、定年差別がなげいけないのか、理解しない人が多かった。おばさん、五十まで働いたからいいじゃない」と言われたものです。五十でやめろ、ということとは、五十で死ぬ、ということですよ。最近やつと、五十まで働きやいいじゃない」とは言われなくなつた。社会の意識が変化してきたのです。今日ここに、こんなに多彩な人が集まっているのを見て感無量です。十年の間に、さらにピンと背すじが伸び、声はさらに大きくなった。会場の参加者に歴史がうかがわれるのなら、壇上の人にも女の歴史があるな、と感じ入る。

国家権力から独立した 雇用平等委員会をつくり 性差別をなくそう

六人六様の立場ながら、それぞれ、どの局面も思いあたることばかり。ひとりひとりの報告に熱い拍手が送られる。

そこで三井まり子さんの詩の朗読。

「翔んでいる女がどこにいる。女の翔ぶ空がどこにある」余韻の中に場内はシ



読売新聞社提供

インとする。

続いて梶谷典子さん作詩作曲『女だから許せない』の大合唱。ふんいきが盛り上がったところで、中島通子さんが、『男女雇用平等法案』の骨子を説明。

「現在の労基法では第四条で賃金の性差別を禁じているだけで、それさえも、労働の中身が違うというだけで言いのがれの道があり、骨ぬきにされている。性差別を規制する法律がないため、男女雇用平等法をつくるのが絶対必要と考える。この平等法では、まず『性差別』を定

義する。『性差別』とは、女であることによって生じるすべての差別をいう。具体的には、女だけが問われる年齢や結婚の有無、子どもの有無、夫の地位・収入、親もと通勤の可否、学歴、容姿にまで及ぶあらゆる差別を言う。さらに妊娠・出産・母性機能や共働きを理由にした不利益な扱いも、『性差別』と規定する。

性差別禁止の対象は、募集・採用・仕事内容・配置・賃金・昇進・雇用形態・定年・職業訓練など、就労の場で考えられるあらゆることとする。

これを実効あらしめるために『男女平等委員会』を設置する。『男女平等委員会』は、『行政委員会』とする。『行政委員会』とは、公正取引委員会と同性格のものである。国家機関から独立して職権行使ができるので、強制権限で調査でき、その結果、不当な事実があれば、使用者に是正勧告ができる。

この委員会は、公取委などと同じく、労・使・公益の三者で構成されるが、過半数は女性でなければならない。事務局職員も同様、過半数を女性とする。

雇用性差別の事実があったときは、この委員会に救済を求めることができ、申立人は差別を受けた本人でなくてもよいのが特徴である。申立があると委員会は前述のように強制権限で調査するが、調査内容がわからず反論もできないまま裁定される不合理を防ぐため、公開の審問手続きを設ける」

と説明があり、「これをたたき台として意見を出しあいたい」「法律は性差別をなくするための一つの手段にすぎず、雇

用平等実現には、働く女たち・働きたい女たちがそれぞれの現場で主体的に運動するほかにない」とアピール、討論に入った。

多様な『女の立場』を考えつつ

つくる力を盛り上げよう

まず横浜市役所の職員から、「法案はよいが、つくる力をどうしてつくり出していくのか、婦人運動も労組婦人部も形骸化しているではないか」と鋭い指摘。中島さんは、「少なくとも今までの労組の中には全くなかったものをつくろうとしている。やき直してはない」と反論。

名古屋の久野綾子さんは、「保護撤廃は労基法改悪という意見が強いが、私は改悪とは思わない。保護撤廃大賛成。女は保護されなければならないような弱い性ではない」と発言。かなり反論が出るかと思われたが、反論のないまま、「雇用平等法が採用の問題にまでふれているのは、従来の労組にはなかった発想。主婦も参加できる場を感謝している」「育休はいてのいいレイオフ。撤廃してほしい」「私企業では育休はどうしても必要」「男女平等法でなく、女男平等法と言うべき」「保母十八名中四名が職業病で倒れ、半数がバリ治療に通っている。私たちは二三年で使い捨てられる労働力にすぎない。労基法改悪を出し続けられるだけでもゆるせない」「夜間保育・病児

保育の充実が女の労働力としてかり出されることになる」「いや、看護婦などにとってはずいぶん必要」「パートの女性の保護も考えてほしい」「かつて三五歳定年だったかおうとしたが、自分一人しかたかう人がおらず敗れた。今は、残業・深夜業の保護のない職場で働いており毎月七十時間も残業がある。それだけに今後の雇用平等法はぜひかちとりしたい」など、さまざまな立場からさまざまな発言が相次ぎ、吉武輝子さんの読み上げる宣言文を拍手のうちに可決して、ゼッケンを胸に、手に手に風船を持ちつつ、明治通りから表参道、代々木公園へとデモを展開、散会した。

雇用平等法について

へあごらでティーチン

一月二十四日、へあごらでは、田中寿美子、中島通子、塩沢美代子、紀平悌子、下村満子、重田佐代子さんと、労基法研究会報告をどう考えるか、これからどうすべきかをティーチン、深更まで熱意あふれる討論が続きました。この内容は、『へあごら』二十号に掲載されます。

なお、へあごらとしてはどう取り組むかについては、各拠点で討論が予定されているところもあります。各拠点責任者までご連絡ください。

26歳 女 技術者

労基法研究会の報告の中でも、保護規定撤廃には大反対。労働者全体の搾取をねらっているにちがいない。女性だけの問題ではないんですよ。だから、何があっても、これには反対し、男女雇用平等法を作る。資本金家だってかっこいいこと言ってますよ。でも絶対にできっこないし、ここががんばらなければ、ズルズルと負けてしまうと思います。

29歳 女 事務員

生理休暇と深夜業務はどんなことがあっても撤廃すべきではない。というのは、こういう規定があっても、現実的にはほんとうに女性の労働条件を保護しているとは思えない。現場で働く労働者の実態は、とっても悲惨ですよ。アンタ、大企業？ 大企業じゃなくても零細のほんとうの底辺でなければ、わからないわね。

大企業の労働組合などといっても、婦人部があるところは、わずかだし、あっても何の機能もしていないのよ。話になりませんよ。産前産後の休暇は、報告では八週間に延長となっているけれど、現に八週間を実施しているところもあるから、報告そのものは、新鮮味などない。

34歳 女 弁護士(米人)

エエツ!? 保護撤廃に反対しているの？ まちがいじゃないですか？ ここにいる人たちはホジュバ？ フェミニストですか？ 私？ フェミニストよ。フェミニスト、いいことね、ホント。

アメリカでは、保護撤廃のなにもに反

対しているのは、カチカチ頭のクリスチヤン、アンチフェミニストです。日本では、どうして逆になっているのかしら。

32歳 男 編集者

労基法の報告書がでた時は、一見論理的なので、表面的にはいいと思ったわけでも考えてみれば、女性、実際の働く場では、いろいろと弱い立場でしょう？ お茶くみとか、煙草買いに行ってくれて言われても、そう簡単にイヤよとは言えないよナ。歯止めがなくなったら、どうするか。革新勢力だって、ほんとうに女の立場になって考えてくれるトコ、ないと思うよ。

労働者のこえ

研究会の報告は上すべりという感じ。

僕としては雇用平等法案を作るほうが先決と考えている。

30歳 女 ジャーナリスト

保護の中でも生休と深夜業・残業に関して言えば、私の職種など、こんなのあってもなくても同じようなもの。現実には深夜も規定外残業もやっている。でもさ、そんなのおもてむきは、そうならなくて、ナントカナントカといった手当てにして、名目的な平等をはかっている。

だから、こんなことなら、名目的な保護など取りはらったほうがよい。実際はどうにしろ、労基法の保護規定を男性は必

ず持ちだす。その人に、そんなことないでしょ。あなたがほんとうに差別をしてるのは、単に私たちが女だからでしょ。などと言っても通じませんよ。

こういう場で、研究会報告や保護撤廃に賛成と言いつけるには、ものすごく勇気がいるなあ。

28歳 女 国家公務員

エリートの人、労基法研究会の報告を歓迎しているんじゃないの？ でもね、底辺の女たちにとっては、大変なことになるのよ。私としては、そういう人たちのためにダンコ反対したい。ただ、生休の取り方については、考えたほうがよい

と思います。

32歳 女 フリーライター

労基法のいわゆる保護条項が、女の足をひっぱっているし、経営は、それを悪用しているという一面はあるでしょうが、働く権利そのものが確立していないなかで、保護をなくすのは、反対。とにかく、女は不要、パートのみ入用という産業の要請ではないか。

45歳 男 公務員

生休と深夜業務だけについていいですか？ まず、生休は、ほんとうに取らなければいけない人がいる限り、それが

少数でも、やっぱりおいておかなければならぬでしょう。そうでないと、本当に必要な人が取れなくなる。生休の取り方の悪さを批判する人がいるけれど、男の場合だって、いろいろなウソについて休んでいる。後で、うまくいったかい？ なんて話し合っているもの。生理ってのは、男にないでしょう？ 何かなじまないから、男のほうにひがみがあるんじゃないかと思うよ。

深夜業務については、職種によつて、女性でもできるものはあると思う。ただ、日本の場合は、女性が、真夜中帰宅するなんてむずかしいでしょう。どこの国でもそうだろうけど。だから会社の寮とか、そういうものが完備されないとダメ。その上に家庭があるからね。むずかしいとは思う。

40歳 女 大学講師

私ね、研究会報告のこととか、男女雇用平等法案など、いくらやってもネ、法律は作られても、ぬけ道なんて、いくらでもあると思うのよ。法律なんて、ソモソモそんなものでしょう。だから、アメリカとかソ連でやっている、女性のある雇用条件を法律的に義務化することだと思ふ。どういふ条件か、いろいろ議論の余地はあるでしょうけど。たとえば、全従業員の何%は女性であるべきだ、とか、年収何百万以上の女性は何%いるべきだ、とか、管理者の何%が女性とか、この辺はみんなて討議すればよい。こういうことを細かく決めていかなければ、女性の労働権は確立されえないでしょう。

宣 言

この国の長い歴史の中で、女たちはいつも働いてきた。

子を産み、育て、食事や着物をつくり、老人を看取りながらも常に働きつづけてきた。

農村で、漁村で、そして産業界で、底辺をささえる労働者として女たちは働きつづけてきた。

しかし、男は仕事、女は家庭という役割分業が根強く固定化されているこの日本にあっては、妻であり母であることを口実に、女は半人前の労働力とみなされてきた。

一生を労働のうちに過ごしながら、ついに女はみずからの力で食べてゆくことを許されなかった。

女たちの労働は、常にくすねられ、かすめ取られていた。家に、男に、そして産業資本に。

女は自分の名前さえ名乗ることなく、男に庇護され扶養される存在として、親の、夫の、息子のかげで生きてきた。

忍耐と従属が美德として強いられ、あらゆる権利と機会を奪われ、ただ義務だけが押しつけられてきた。

今、女たちは新しい歴史に向かって身じろぎを始めた。

女もみずからのために働き、みずからを養い、人間としての尊厳を維持する権利を有することを知った。

私たちは、女へのいじめなき差別を拒否し、みずからの名を名乗り、みずからの力で生きようと決意した。

だが、私たちを囲む差別の壁は、あいかわらず厚く、高い。

女子大生は固く閉ざされた企業の門戸に立ちすくみ、職場の女たちには単調な仕事と展望のない地位しか与えられず、賃金差別、定年差別のなかに、たえず、家庭の幸福を、とささやかれる。

子育てを終えた女たちは空白の人生と苦しい家計を埋めるため、低賃金のパートタイマーとして企業の繁栄の安全弁となる。男によって作られた法律は、女とともに働くものとはみなさない。

現行法規は職場の性差別を禁ずることはない。女たちの生存権を保障することもない。

だが、私たちはもう男にこびながら生きる人生にはあきあきした。これ以上、半人前の労働力と扱われるのはもういやだ。だからこそ、私たちは今すぐ新しい法を作らねばならない。あらゆる性による差別を禁ずる法を。

その第一歩は、女の労働権を保障する法の実現だ。

しかし、私たちは、人間らしいくらしを忘れ、自分を忘れ、生涯を企業に売り渡した男の悲しき働きかたをそのまま真似るつもりはない。

私たちは、女が女の性を、男が男の性をそこねることなく、共に人間として働く権利を保障する。男女雇用平等法の実現をめざす。

私たちは固定化された女の役割は選ばないが、女であることに誇りと喜びを持つ人間として生きたい。

私たちは要求する。女が産む性を誇らかに生き、働くことのできる権利を保障する。男女雇用平等法を。

私たちは働く。みずからのパンのために。みずからがこの社会に生きることを確認するために。私たちは働きつづける。長い従属の歴史を生きた女たちへのいとおしみを胸に、より良き女の未来を切りひらくために。

ここに集まった私たちは宣言する。

私たちの男女雇用平等法の実現をめざすことを。完全に性差別がなくなる日まで連帯し、そして闘うことを。

一九七九年一月二十日

(仮称) 私たちの男女雇用平等法をつくる会

30歳 女 外資系会社秘書

きのうの朝日新聞で集会のことを知り参加しました。どこのグループにも属していないし、全くの未組織労働者です。結婚して一年三か月、子どもはまだありませんが、今後のこととして、育児や保育所のこと、母性本能と子どもの問題を考えていると思っています。

今まで女の問題を積極的に考えたことはなかったけど、職場の上司(デンマーク人)が社会主義者で、彼から多くのことを学びました。自分の職場は恵まれているけど、だからいいということではなく、全体の問題として考えたい。保護を撤廃しようという人は問題を網羅して考えてないのではないか。いろんな立場の人のかねあいをどうするかが、これからの問題でしょう。

53歳 女 会社員

パイオニア世代として、まるで職場で働くような働き方を続けてきた。それだけに雇用平等法が作られることは感無量です。労基法研究会が雇用平等法が必要だと言ってくれたのはありがたいことで、研究会報告は悪い、と全面否定するよりは「私たちの雇用平等法」を積極的につくろだし、それをかちとっていききたい。

労基法の問題は、いろいろな立場があり、これを先に出すと女が分裂することになる。まず雇用平等法に力を集結し、それをかちとってから労基法を考えると、いうように二段がまえにしたほうが有効でしょう。とにかく実現できるものから一つ一つ実現させていきたい。

労基法改悪提言に

労働省へハガキで抗議しよう!!

塚崎 美和子

労基法改悪提言をめぐって、その後、朝日新聞紙上で異議（78・12・2 提言は婦人の労働権の確立を阻むものという主張 津村明子 大阪総評婦人協議会議長 NHKディレクター）や賛成（78・12・8 女性保護より男女平等の職場をという主張 荻原節子 日本リーダーズダイジェスト編集部記者）が展開されている。

荻原さんの主張は、経済競争を勝ち抜かなければならない民間企業が労働コストを考慮するのは当然であるという視点で、雇用の機会を得るため男に女も頑張ろうということのようだ。

今回の提言は、一部の中性的な立場で仕事をしている女性たち（主として独身の女たち）にねらいを定めているのではなく、底辺の生産労働にたずさわっている者や未組織労働者をより安く、効率的に使い、労働条件を厳しくすることで、いつも首を切れるようにしておこうとするもの、とみななければならない。荻原さんには、底辺で働く女たちにとって、長時間労働や深夜業が彼女たちのからだをむしばむことになる、という想像力がないのであろうか。

ほんとうは男だって、長時間働くことや深夜業が肉体と精神にいいはずがない。男たちのそのような不自然な労働条件のため、家庭に家事・育児のみを選択せざるを得ない「妻」が存在し、性別分業を

なしているのに、女も男女平等のため、男に働かねばならないとしたら、家庭にお手伝いさんが必要になるのではないか!? 結局、女は余裕をもって仕事を続けるためにパートという労働形態を選ばざるを得なくなり、実質的労働条件の切り下げとなる。

私は思う。八時間労働だってほんとうは長すぎると。子どもを生み、育ていくことを人間的なことでみなすなら、そのことと矛盾しない労働時間こそ人間的なのだ。男女とも週休二日制となり、一日の労働時間ももう少し短縮されることによって、男も女も物の生産労働と生命の生産労働に無理なくたずさわれるのではないかと思う。

現在の労基法の下で働いている教師たちですら、「健康」は4割満たずというのが現状だ。（宇治久世教職組の調査より 朝日新聞78・12・15）

組合員998人へのアンケート
回答者 657人 うち女性2/3強
健康 体の調子が悪い 病気がち
全休 39.1% 53.9% 7%
女性 32.9% 59.8% 7.2%
三か年以内に妊娠出産した教職員94人中、
妊娠異常があった 四四・七%
分べん異常があった 三三・三%

切迫流産や流産が多く、母性保護の必要があると白書は指摘。そして実際、「生理休暇がとれない」八九・一%というのが現状で、たとえ「年休や生理休暇などをとった」人もその日数は二日以内がほとんどというのだから、妊娠出産異常の高さもうなずける。母性保護は決して、産前産後の休業を今より少し長くすればそれでよいというものでないことを如実に物語っている。

比較的恵まれた労働条件の教師たちですらこれだから、底辺で働く女たちはもっとひどいと言えよう。東京都内の交通遺児の母七八二人へのアンケート結果、工員をしている七〇%近くがなんらかの形で病気になる（78・1・17 朝日新聞）というし、中小企業、職場の実態調査（関西働く婦人の会）では、職場で健康診断が定期的に受けられるのは半数にすぎず、病気が発見されると解雇されるので健康診断を受けないという報告や「毎日残業するので肩こり、貧血、腰痛に悩まされ、とうとう血尿が出た。やむなく退職したが、定期検診の制度があればもっと早く手当てができたのに」という涙まじりの発言が七八年一月二〇日、豊中市のよみうり文化ホールで聞かれた「働く婦人のつどい」であつたという（78・11・23 朝日新聞）。

こうした現実を労基法改悪を提言した労基法研究会の会長代理、有泉亭 東大名哲教授は知っているのだろうか。

労基法の保護規定は、子を生み育て、なおかつ働く女たちにとって、まだまだ不十分な権利にすぎないのだと女たちは

言い続ける必要があると思う。だから改悪は、断固阻止せねばなりません。私はハガキで労働省に抗議しようと思います。

あごらの皆さんも抗議しませんか？

〈あて先〉

東京都千代田区大手町1の3の1労働省
・労働大臣 藤井勝志
・婦人青少年局長 森山真弓
・労基法研究会第二委員会 有泉亭

大学女解研の方々 情報をください!!

勝村 和恵

大学で女性問題を研究しているサークル、同じ志を持ちながら、分断されている女たちへ。

今、各大学で女性問題を研究するサークルがどんどん生まれていますが、お互いの交流もなく、手をつなぎあえないまま消滅したり、弱体化したりしています。

せめて、東京周辺のサークルだけでも手を取り合おう。何かそのきっかけをつくらうと考え、
「Information for Women」という交流紙をつくりました。

送料その他は、こちらが負担します。何の他意もなく、私（早稲田大学一年）がひとり続けています。どんどん情報を送って下さい。

お申し込みはハガキで、あなたの住所サークル名、大学名をお忘れなく。

〒165 中野区野方五一〇一四
サンハイム野方二〇一号 安田響気付
勝村和恵

けいじばん

あごら 全国大会は 7月21・22日 名古屋で

全国のあごら会員みなさん、おげんきですか、名古屋から、寒中お見舞申し上げます。

一昨年の秋、初めてのあごら全国大会国立婦人教育会館でお会いしてから、一年半がたちました。あの時、うっかり話のつたのが運のツキ。今年は、へあごら東海で、二回目の全国大会を準備することになりました。

まだ具体的なことは、決まっておりますが、皆さんが家をあけやすい、七月

◆ボランティアグループ「へさつき会」の会報2が出ました

老人問題を中心に名古屋で活動を行っている「へさつき会」が、会報2を出しました。1で「発足のねらい」をまとめ、地域活動の核づくりを意図しましたが、やっとそれのできる人が育ってきたので、一区切りとして「輪を広げよう」をまとめたものです。市に強硬交渉してやっと設けられた婦人会館内のボランティアビュローを根城に、こっちは名古屋市の各区に地域ボランティアを作っていくと考えています。これからは、い以上にPRが必要でしょう。どうぞご協力をお願いします。記録2は一冊五百五十円、この売り上げは活動費にもなります。販売にご協力頂ければ幸いです。

〒468名古屋市昭和区天白町八事富士見ヶ丘八九 野村光枝
電話 052・832・8551

◆あごら京王・特別講座「へ女が老いるということ」 3月10日

「女と老後」の勉強会を続けてきた「あごら京王」の主催。講師は泉の会長、小金井市老後研究会代表者二瓶万代子さん。是非、皆さんのご参加を。(あごら読書室にて。午後6時30分より)

◆差し出し人の名のないハガキを下さった目黒区の方

一月十八日付、目黒局区内の消印で、事務局あて、購読中止のハガキをくださった方、住所・氏名が入っていません。ご連絡ください。

◆「顔の秘密」についての本を安くお頒ちします

人相、手相の研究二十年、顔が示す性格や行動を読みとる術を新書版二百ページにまとめました。定価五百九十円ですが、へあごら関係の方には五百円(送料百二十円)でお頒ちします。

横玉椒

二十一日(土)・二十二日(日)を予定しております。場所は、愛知県瀬戸市にある定光寺自然休養村内のすばらしい景勝の地、愛知県労働者研修センターを予定しております。ただし、申し込みは二か月前。夏に向けて、いろいろな催し物の殺到が予測されることから、この二日に、思うように予約がとれるかどうか心配しています。場所にこだわって、日付けを操作するか、日付けにこだわって、場所を移すか、いずれ、最大の努力をした後、詳細をお知らせします。今夏は、名古屋の「あごら全国大会」での再会を予定に入れておいて頂ければ幸いです。

中では未定。午後は、会場を名古屋市婦人教育会館に移して、どなたか著名な講師をお招きして、一般公開。同時に、あごらのバックナンバー販売、東海地方の新会員の獲得などを考えてみたいと思います。特に、講演会は、「あごら20号」発行記念もかねて、少し力を入れたと思っています。

なお、これらのことはすべて、予定ばかりです。再会をさらに意義あるものにするためには、会員皆さんの力が必要です。ぜひぜひ左記まで、ご希望・ご意見などをお寄せ下さいませよう、お願いいたします。初め、うっかり話に……と言いましたが、本当は、はりきっています。

ぜひぜひご支援をお願いします。

名古屋市緑区大高町伊賀殿107 高橋 ますみ



| 日 | 時 | テ | マ | 会 場 |
|----------|-------------|--|----------|--------------------------|
| 2月13日(水) | 18:15~19:45 | ヨガ教室 入会金5000円 講習料1か月4000円 (問い合わせ 308-6187 平松) 毎週火曜日 | 〈独身婦人連盟〉 | すべーす J O R A 03-203-6022 |
| 14日(木) | 18:30~ | 刑法改悪に反対する婦人会議 | | 中島法律事務所 03-350-6082 |
| 15日(木) | 13:00~16:00 | 労基法研究会をめぐる討論会 講師 藤田たき、山内一夫、江上フジ、田辺照子ほか〈婦人少年協会 後援 労働省〉申し込み 387-1260 参加費1000円 予約制 | | サンケイ会館601号室 231-7171 |
| | 11:00~16:00 | 読書会第二の性第2巻第2章“母”〈あごら阪神〉 | | 木沢宅 06-431-5376 |
| | 18:30~ | 鉄道の7人とともに仕事差別・賃金差別と闘う会 学習会 (問い合わせ 352-7010) | | 未定 |
| 16日(金) | 19:00~21:00 | 講座「植民地としての女」 男による女への支配が、大国が小国を支配する方法と同じであることを女の目から明らかにしていくための講座 講師 小西 綾 女性のみ 500円 〈すべーす J O R A〉 | | すべーす J O R A |
| 17日(土) | 14:00~16:00 | 婦人民主クラブ講座「源氏物語」 講師 村山リウ | | 大阪市立婦人会館 |
| | 18:00~20:00 | 「万葉集」 講師 益田勝実 | | 千駄ヶ谷区民会館 03-402-7854 |
| | 14:00~18:00 | あごら九州・例会 | | 福岡市婦人会館 092-712-2662 |
| | 19:00~22:30 | 女のパーティー 女性のみ 会費600円 〈まいにち大工〉 | | すべーす J O R A |
| 18日(日) | 13:30~16:30 | 「女と働くこと」 報告 稲垣良代、柴田潤子、塚崎美知子〈あごら京都・例会〉 | | 京都市上京区 Y W C A |
| | 13:00~16:30 | 結婚の意味を問う継続討論 藤村 哲 | | 豊島振興会館 |
| 19日(月) | 18:30~ | 労働分科会 〈国際婦人年をきっかけとして行動する女たちの会〉 | | 中島法律事務所 |
| 20日(火) | 18:15~19:45 | ヨガ教室 〈独身婦人連盟〉 | | すべーす J O R A |
| 23日(金) | 10:00~12:00 | 「母性保護と平等」 講師 佐藤典子 〈あごら東海・例会〉 | | 東京地方裁判所民事6部 |
| | 13:00~ | 鉄道の仕事差別裁判第8回公判 | | 名古屋市婦人会館 052-331-5288 |
| | 18:30~ | 冒険少女クラブ発足・VOL.1「家を建てた女たち」 女性のみ 500円 〈冒険少女クラブ〉 | | すべーす J O R A |
| 24日(土) | 14:00~16:00 | 婦人民主クラブ歴史講座「爆弾を抱く女たち——菅野須賀子・金子文子」 講師 瀬戸内晴美 | | 未定 |
| | 13:00~14:30 | 昭和53年度福岡市婦人の集い 講演「現代社会と婦人の責任」山本和代 〈福岡市婦人会館〉 | | 福岡市婦人会館 |
| | 14:30~15:30 | 昭和53年度福岡市婦人の集い 団体発表会 あごら他 | | 〃 |
| 25日(日) | 13:00~17:00 | 「現代子育て考Ⅳ “男と子育て”」 合評会 〈男の子育てを考える会〉 (問い合わせ 0422-32-0587 星、261-0778 現代書館) | | 中野区新井沼袋出張所 2階和室 |
| | 18:30~ | あごら19号合評会・〈あごら札幌・例会〉 | | 北海道クリスチャンセンター |
| 26日(月) | 19:00 | 「各国の労働条件について」〈あごら武蔵野・例会〉 | | 東村山社会福祉センター |
| 27日(火) | 18:15~19:45 | ヨガ教室 〈独身婦人連盟〉 | | すべーす J O R A |
| | 18:00 | 「労基法研究会報告と雇用平等法について」〈あごら北東京・例会〉 | | 婦人共同法律事務所 03-985-3308 |
| 3月1日(水) | 18:30~ | 離婚分科会 〈行動する会〉 | | 中島法律事務所 |
| 3日(木) | 19:00~ | パーティーどん——中高年を中心としたディスコパーティー 女性のみ 会費700円 (問い合わせ 267-1723) 〈56番館〉 | | すべーす J O R A |
| | 13:30~16:30 | パネルディスカッション「労基法について」〈婦問懇・例会〉 | | 渋谷勤労福祉会館 03-462-2511 |
| 4日(金) | 11:00~ | 離婚分科会 〈行動する会〉 | | 中島法律事務所 |
| 6日(日) | 18:15~19:45 | ヨガ教室 〈独身婦人連盟〉 | | すべーす J O R A |
| 7日(月) | 10:00~ | 産婆の学校 〈ホビット村学校〉 | | ホビット村学校 03-331-1187 |
| 10日(木) | 13:30~17:00 | 「アジアの女たちの会」結成2周年集会—3・8国際婦人デーによせて— 参加費500円 〈アジアの女たちの会〉 | | 東京会館ホール (田町駅東口前) |
| | 18:30~ | 「女が老いるということ」 講師 二瓶万代子 〈あごら京王・例会〉 | | あごら読書室 03-354-3941 |
| | 19:00~ | 女と男の井戸端会議 〈ホビット村学校〉 | | ホビット村学校 |
| 13日(火) | 18:15~19:45 | ヨガ教室 〈独身婦人連盟〉 | | すべーす J O R A |
| 14日(水) | 10:00~ | 産婆の学校 〈ホビット村学校〉 | | ホビット村学校 |
| 18日(土) | 12:00~ | 産婆の学校 〈ホビット村学校〉 | | ホビット村学校 |
| | 13:30~ | 「主婦の再就職はいかにしたら可能か」講師 齊藤千代 〈あごら京都・例会〉 | | 京都市上京区 Y W C A |
| 24日(日) | 14:00~16:00 | 婦人民主クラブ歴史講座「働く女たちの系譜(その1)——1930年代を中心」 講師 山代 巴 | | 未定 |

〔編集後記〕「保護撤廃に賛成のエリート女性対 反対の労働界が激しく対立」などとマスコミは例 によって書き立てていますが、「私たちの“雇用 平等法を”私たちが自ら“つくろうとする積極的な 動きは、対立を超えて新しい次元を開こうとして います。職場と直接かかわりのない主婦にとつて も大きな運動として、ぜひ成功させましょう。(R)

| | |
|--------|-----------------------|
| あごら旭川 | 旭川市神楽岡一条五丁目3 田代慶子 |
| あごら札幌 | 岩見沢市九条西三丁目 山口里子 |
| あごら北東京 | 川口市芝北町34113 宗久知恵子 |
| あごら武蔵野 | 小平市小川町1-763 丹羽雅代 |
| あごら京王 | 府中市晴見町3-21 関 和子 |
| あごら神奈川 | 神奈川県厚木市厚木801-1 沼田千恵子 |
| あごら東海 | 名古屋市中区大高町伊賀殿107 高橋ますみ |
| あごら京都 | 京都市左京区北白川久保田町36 塚崎美和子 |
| あごら阪神 | 尼崎市武庫之荘3-6 木沢みすず |
| あごら九州 | 福岡市西区笹丘2-4 小島豊子 |

各地のあごら連絡先